会員の声

磐梯山の開発と自然環境の保全 －名ばかりの SDGs・磐梯山ジオパーク

磐梯火山は、磐梯山（1816 m）・櫛ケ峰・赤埴山の三峰から構成される。写真の工事が行われているのは、赤埴山の南斜面である。2022 年 6 月 9 日、自宅から磐梯山を見ると、赤埴山の南斜面に「あばら骨状の褐色の模様」（写真 2）があるのに気が付いた。新緑の中の褐色であるので、コントラストが高く明確に分かった。保存しているデジカメ画像を調べたところ、雪解け直後の 4 月下旬から工事が始まっていた。その後も工事は進み、10 月 2 日現在、工事は、あばら骨状の部分が終わり、更に斜面の下方へと広がっている。また、7 月 31 日（工事休業日）に、あばら骨状の工事現場に行った（写真 3）。この斜面傾斜は約 25 度で、幅約 3 mの作業用道路がツヅラ折れ状に作られ、そこから更に横方向に掘削されていた。道路は、山側に高さ最大約 2 mの露頭があり、斜面側には工事で出た土がむき出しになっていた。写真 2 の中央の上下方向の線状の部分には、鉄管が埋設されつつあった。この斜面は、千葉・木村（2001）の第 5 期の天庭軽石流堆積物からなり、その上に火山灰等の 2 次堆積物がある。また、ここには元々登山道があったが、この工事により登山道は西側（写真 2 の左側のリフト付近）に移され（その下方の登山道も含めて）、私が地質調査で歩いた 1979 ～ 2000 年ころとはルートが大きく変わっていた。

私はこの工事に気が付いて、すぐに情報を収集した。それによれば「猪苗代町と DMCaizu（民間企業）が協力し、『会津テラス計画』を進めている」とのことである。この工事はその関連工事であろうとのことであった。情報の一つに「2021 年 12 月 21 日福島民友新聞の記事」がある（ネット検索「福島民友　会津テラス」でヒットする）。それによれば、会津テラス計画とは「赤埴山山頂に 1 年中利用可能なレストハウス『会津テラス』を作り、更に連絡ゴンドラを山麓から会津テラスまで作る」とのことである。また、猪苗代町および DMCaizu 作成の計画書によれば、赤埴山山頂部に「ゴンドラリフト山頂駅」「レストハウス等 3 棟」「巨大な展望台」（地上 1 階、地下 1 階、これらが『会津テラス』）を建設し、これらと猪苗代スキー場のレストハウスを結ぶ「ゴンドラリフト 2 基」（『会津スカイケーブル』）を建設し中継地点にもレストハウスを建設するという。

以下、私の考えを書く。今回の工事は、山麓からも明確に見えるものであり、また、現地では工事により斜面がズタズタに切り裂かれている。この工事はスキー場の人工降雪機に水を供給する目的で作られ、水自体は何と山麓の土田（はにた）堰（580 m）からこの斜面（1200 m）まで汲み上げるという。また、計画されている「会津テラス」も自然破壊の問題を含んでいる。単純に考えると、この計画が進めば工事用道路が赤埴山山頂まで作られ、大規模な自然破壊が起こるであろう。近年、SDGs が提唱され、その中で「持続可能な自然との共存　」（15. 陸の豊かさも守ろう）が詠われている。しかし、磐梯山周辺では絵空事である。計画書には SDGs を考慮しているように書かれているが、内容を良く読めば「建設が優先で自然環境の保全は全く考慮されていない」ことがわかる。更にこの地域には「磐梯山ジオパーク協議会」が存在する。日本ジオパークネットワーク（Web サイト）によれば「ジオパークとは、地球科学的意義のあるサイトや景観が保護、教育、持続可能な開発のすべてを含んだ総合的な考え方によって管理された、一つにまとまったエリアです。」とある。磐梯山ジオパーク協議会は、この理念を理解しているのだろうか。磐梯山ジオパーク協議会は、今回の工事や「会津テラス計画」では迅速に行動し、「自然環境の継続的な保全を図らなければならない」と私は考える。現状、その兆候は全く見られない。「磐梯山ジオパーク協議会はその機能を全く果たしていない」と考えざるを得ない。

磐梯山関係者からの情報によれば「予定の工事が終わらず、スキーシーズンに入るので、（写真の）斜面の工事・道の部分を埋め戻しゲレンデにする。来春、また同じ工事をして今の状態に戻す。」とのことである。自然環境の破壊が更に進むと考えられる。

（2022.10.25.　福島支部　千葉茂樹）

そくほう　No.793

2022 年 12 月 1 日発行　（毎月 1 回 1 日発行）
編集　地学団体研究会全国運営委員会事務局
発行　地学団体研究会
印刷　株式会社アイネクスト
TEL　029-836-5765　FAX　029-836-5766

〒 171-0022　東京都豊島区南池袋 2-24-1 八大ビル 301 号
TEL　03-3983-3378　FAX　03-3983-7525
E-mail　chidanken@tokyo.email.ne.jp
https://www.chidanken.jp
郵便振替　00160-2-144318　地学団体研究会